

代 表 者

研 修 報 告 書

令和元年7月31日

各 会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

小田 晃士朗 印

定森 健次朗 印

次のとおり研修に参加したので報告します。

1. 研修期日

令和元年7月18日（木），19日（金）

2. 研修項目

中国ブロック若手市議会議員の会 総会・研修会（広島県庄原市・三次市）

3. 参加議員

小田 晃士朗， 定森 健次朗

4. 随行者

なし

広島県庄原市

■研修項目

せとうちDMOとの包括協定「古民家ステイ」の取組みについて

・研修対応者

株式会社瀬戸内ブランドコーポレーション 事業責任者 木村洋様
株式会社瀬戸内ブランドコーポレーション シニアマネージャー 阪本浩和様
庄原市議会議長 宇江田豊彦様
庄原商工会議所 専務理事 本平正宏様
Baton 代表 水間真様
庄原市観光振興課 係長 糸原様

・研修期日

令和元年7月18日（木）午後13時30分～午後16時00分

・庄原市の概要

人口：35,134人
世帯数：15,563世帯
（令和元年6月30日現在、外国人を含む）

・研修目的

観光振興の手法について研究するため

・研修内容

【株式会社瀬戸内ブランドコーポレーションからの説明】

○概要

せとうちDMOを構成する株式会社瀬戸内ブランドコーポレーションは、広島県庄原市および地域各団体からなる庄原古民家ステイ推進協議会との共同で、庄原市内に点在する複数の歴史的な古民家をリノベーションした古民家宿泊施設を開業するとともに、庄原市と観光地域づくりに係る包括連携協定を締結。

新たに開業する古民家宿泊施設Setouchi Cominca Stays「長者屋」（ちょうじゃや）および「不老仙」（ふろうせん）は、美しい田園風景の間に非常に多数の古民家が残る庄原市郊外にある、地域の人々から大切にされてきた建築物を、歴史的建築物の利活用と空き家対策の観点から、急増する外国人旅行客をメインターゲットとした宿泊施設へと改修し、高品質な1組限定一棟貸しの宿として、令和元年秋の開業を目指している。

観光地域づくりに係る包括連携協定では、本取り組みをはじめ、庄原市の観光振興に関する様々な取り組みにおいて連携していくことを取り決め、今後は

さらに単一の施策に終わらない統合的な観光地経営を庄原市および地域諸団体とともに進めていく方針。

なお、瀬戸内ブランドコーポレーションでは、『せとうち古街計画』を策定し、せとうちDMOが活動を行う7県（兵庫県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県）を対象に、地域の価値向上を目指して埋蔵観光資源の利活用に取り組んでいます。瀬戸内の歴史的建築物を活用した宿ブランド「Setouchi Cominca Stays」はその象徴的取り組みであり、瀬戸内諸地域の国内外へのブランド化に努めていく。

※せとうちDMO HP「お知らせ」参考

○DMO

増大する旅行消費を獲得するための「稼ぐ観光」づくり組織

D Destination

M Marketing/Management

O Organization

2019年3月時点で123法人を認定。候補法人は114。

○せとうち古街計画

歴史資産を維持保存から活用のフェーズへ。

地方創生政策の中で、地域の稼ぐ力や地域価値を高める。

歴史文化を活かし、限界集落、古民家を再生。地域住民や自治体と協同で地域の魅力を再開発し、マネタイズする観光を基軸とした地域活性化が可能。成功モデルの拡大加速を狙う。

例1) 兵庫県豊岡市「集落丸山」

- ・5年前に古民家三棟を宿化。
- ・5世帯19人が、6世帯23人に。
- ・集落の田畑の50%を占めた耕作放棄地の復活。
- ・外部の専門ボランティアチームによる里山整備。

例2) 徳島県三好市東祖谷「落合集落」

- ・三好市が主体となり8棟の空き家を宿化。
- ・地域住民の家庭訪問、郷土料理体験、ガイドツアーなど地域の歴史文化を総合体験。
- ・地域に新たな雇用、収入機会が生まれる。
- ・地域住民と交流人口の交渉が活性化を促す。

→古民家を改修した「宿」の整備から始まり、さらにその周辺へハード、サービスなどを展開していくことで、地域全体の魅力が向上。

→宿事業だけではない「波及効果」が地域住民のシビックプライドももたらす

→地域が抱える課題群が、結果的に解消されつつある。

【質疑応答】

Q 魅力の掘り起こしはどのように行ったのか。

A よその人と呼んで、他の角度からみてもらうことが一番早いかもしれない。よそのものの自分が地元の方にこの景色が素晴らしいと伝えても、地元の方は見慣れた景色。あまりいいものではないと感じてしまう。3年間活動して感じることは観光資源ニューツーリズムはその生活にあると考えます。その地域での人々の生活を垣間見る。これが観光資源となる、日々の当たり前がそうでない。よそからの人はそれに気づく。

Q コミュニティの存続自他が問題の中山間地域で可能なのか。

A 今持っている者の価値に気づいていない。外から指摘して気づくことが多い。シビックプライドが芽生えたとき、次のアクションがうまれる。まずはこの何気ない風景や生活を資源としてとらえ、地域住民の皆さんと動くことにしました。

Q 情報発信の仕方は。

A 情報発信の方法はオウンドメディアである。他都市での例で言うと、インターネットで直接検索する情報収集60%。宿予約もその確率でオンライン旅行代理店を通してやってくる。オウンドメディア、OTAのプロモーション。他都市の古民家は、当初目的の5-10%下回っているが、原因としてオウンドメディアのPRが弱いからと分析している。

Q 地権者との交渉はどうであったか。

A 株式会社瀬戸内ブランドコーポレーションはそこに関しては、説明等をするのみで、交渉やコミュニティの情報収集などは市の観光振興課やキーマンになる地元の人が動いた。ここにDMOとして官民一緒になったことができるところがこういった形態の利点であろう。

Q なぜ庄原市と包括提携をしたのか。

A 商工会議所さんとのつながりがあったが、最終的にここで古民家ステイをしようとした最大の理由は、民間、自治体、関係団体が一致団結できるかどうかという、フィールドの状態が大きかった。庄原市さんは全体的にリレーションがとれていると感じたので、ここで勝負をしようと考えた。

Q クルーズ船と繋がる計画はあるか。

A クルーズ船の滞在時間が数時間。客単価としては観光妨害だと言われ始めている。瀬戸内の魅力は山と海が近い。江田島市、赤穂市などのビーチエリアの市。開発

の仕方が違うので、可能性としては考えられる。旅行代理店と会話をしたときに瀬戸内ではエリアで引き込まないといけないという話もしました。

Qこの事業の要件は

A瀬戸内古民家ステイズ、の要件は生活体験ができるような場で会ったり、アクティビティがあったり。トラベルザライフ。非日常ではなく異日常がコアバリューであることから、その資源をもっている地域であればどこでも可能である。

【呉市での展開の可能性】

多くの観光資源がある呉市において、DMO組織運営という考えはもつべきである。なぜなら、市独自で観光振興を行うには公平性や専門性の観点から限界があると考えられるからである。現在、一般社団法人呉観光協会がその窓口として行っているが、様々な専門性をもった組織、人材が一丸となって、さらに推し進めていくべきである。方法として、広域DMOと連携するのか、地域版DMOとして組織作りをするのか選択肢はあるので、呉市の人口規模や、市民の性質などの特徴を鑑み、どういう観光施策の進め方が地域にあっているのか考察して頂きたい。

この度の瀬戸内ブランドコーポレーションは、ファイナンスと国からの補助金で事業を開始している。ビジネスだけではないが、何かをはじめることはリスクが必ずついてきます。そのリスクをグッドリスクにするために民間と公共が力を合わせて、同じ方向を向いて観光施策を展開して頂きたい。

広島県三次市

■研修項目

三次市の取り組みについて

- ①福岡誠志 三次市長との懇談
- ②妖怪博物館の現地視察
- ③森のぼっけの現地視察

・研修対応者

- ①広島県三次市長 福岡誠志様
- ②三次もののけミュージアム 学芸員 伏見由希様
- ③三次市子育て・女性支援部女性活躍支援課 課長 坂田千晶様

・研修期日

令和元年7月19日（金）午前9時00分～午後12時00分

・三次市の概要

人口：52,104人
世帯数：23,489世帯
（令和元年7月1日現在）

・研修目的

近年の三次市の取り組み状況（主に観光振興・子育て支援）について研究するため

・研修内容

【①福岡誠志 三次市長との懇談】

○概要

平成31年4月から三次市長として活躍されている福岡誠志氏から、今後の三次市の展望について、話を聞いた。福岡市長のマニフェストの内容を中心として、三次市の今後のまちづくりの在り方やこれに伴う令和元年度6月補正予算の概要について議論した。

○福岡誠志 三次市長マニフェスト「前進」

- ・三次の元気づくりに、前進。
- ・計画性のあるまちづくりに、前進。
- ・災害に強い三次に、前進。
- ・新しいものづくりに、前進。
- ・暮らしの安心に、前進。

【②妖怪博物館の現地視察】

○概要

三次もののけミュージアムは、平成31年4月に三次市に開館した妖怪博物館である。三次市は稲生物怪録の舞台となった地であり、この物怪録は絵本や巻物、漫画の題材にもなるような有名な物語である。本ミュージアムは個人のコレクションの寄贈を受けて開館したという経緯がある。

館内には、約5千点という蔵書を誇るとともに、民間事業者（チームラボ）とコラボして、蔵書のデジタル化を行っており、スマートフォン感覚で妖怪を動かせる等、目で見て楽しめる施設となっている。特に自分で描いた絵をスクリーンに投影することが可能なアミューズメントコーナーもあり、子供に人気のスポットとなっている。また、頻繁にイベントやワークショップを行う等、ミュージアムの陳腐化を防止し、魅力化にも努めている。

○常設展覧会

稲生物怪録や日本の妖怪の絵巻、漫画等の展示により、妖怪文化の歴史を披露
自分で描いた妖怪が、スクリーンで踊りだす体験型施設

例1) 常設展示「日本の妖怪」

例2) 常設展示「稲生物怪録」

例3) アミューズメントコーナー「妖怪遊園地」

○企画展等

飽きないミュージアムとして、季節ごとの企画展に加え、講演会やワークショップ等を定期的に行う

例1) 夏休み企画展「かわいいかわいい妖怪展」

例2) 秋の企画展「華麗・妖美なる妖怪絵巻の世界」

例3) もののけ講演会

例4) ぶらりもののけクイズラリー

【③森のぼっけの現地視察】

○概要

森のぼっけは、平成29年4月に三次市に開館したこどもの屋内遊び場である。感性を育む木のおもちゃが中心となっており、滑り台等の大型遊具もある。金具をなるべく使わない等、随所に配慮がうかがえる。また、多目的トイレや授乳施設等を完備している。このように、子育て世代の目線にたち、福祉や安全にこだわった施設設計となっている。このため、赤ちゃんからお年寄りまで参加が可能な多世代の憩いの場となっている。

なお、施設は、車両での利便性が非常によく、周辺に大型施設が多いこともあり、約2年間で既に10万人弱の来場者があり、県外からもリピーターが多いことから、観光にも一役を買っている。また、旧パソコン教育施設をリノベーションして経費を圧縮している。

○施設運営体制等

子供の対象年齢は、6か月から小学校6年生まで
大人同伴必須で大人1人につき、3名まで入館可
総入替制で、平日2クール・休日5クール
施設員は、正規・非正規含め四人のローテーション勤務
(全て保育士資格保有者)
施設は、授乳室・おむつ交換スペース有
リノベーション費用は、1億5千万円
ランニングコストは、約2千万円

○周辺環境

見通しのよい交差点の角地であり、車で三次ICから約3分
(車での移動時間が1時間半未満であれば、リピーターになる可能性有)
近隣に、みよしあそびの王国(こどもの屋外遊び場)、病院、美術館等が密集
しており、子育て世代にとって安全に複合的に楽しめる施設群

【呉市での展開の可能性】

三次市は、近年開館させた博物館やこどもの遊び場の設置から、子育て世代を対象としたまちづくりを進めていると考えられる。三次市の広い土地と交通の利便性を生かした結果であり、観光資源としても十分な付加価値が生まれてきている。

呉市においては、急峻な地形や狭い平地部等の一定の制約があるものの、大和ミュージアムをはじめとした多くの観光資源がある。従って、呉市においても、要点の交通網の整備や観光拠点化を進めることによって、3世代が参加可能なコミュニティを創生が可能と考えられる。このためには、どの世代に対して、どのような観光施策を展開すべきかをしっかりと考え、狙いをもって整理する必要がある。一例ではあるが、呉市は広島県の陸海の要衝として、非常に重要な位置を占めているので、海上自衛隊(旧海軍工廠も含む)、海運、マリンスポーツ等の親和性の良いコンテンツを結集して進めていくことが肝要と考える。